

# Arcserve® Unified Data Protection v6

## ご使用になる前に

この度、Arcserve Unified Data Protection v6（以降 UDP）をお買い上げいただきありがとうございます。本書を、ご使用になる前に必ずお読みください。

※他添付資料と内容が異なる場合は本資料の内容が優先されます。

### • OEM 製品についての注意事項

本製品は OEM ライセンス製品です。OS、アプリケーション、対応サーバ機器について別途販売元より動作要件が定義されています。また、ご購入された OEM 販売元のサポート以外は有償、無償に関わらず受け付けられません。詳細につきましては購入時の営業/技術担当経由でお問い合わせください。尚、ご購入時にオーダーフォームに記入されましたお客様情報の連絡先に各案内メールが送付されることがございます。ご注意ください。

### • Arcserve Backup、Arcserve RHA の動作範囲について

本製品には Arcserve Backup、Arcserve RHA のライセンスが含まれる製品があります。ライセンスの利用範囲は製品の仕様になりますが、サポートされる範囲（動作範囲、OS、機能）は販売元の同製品でサポートされる範囲になります。

### • UDP ライセンスキーについて

ライセンスキーはプログラム証書の「登録 ID/キーコード」に記載されています。付属する Arcserve Backup のライセンスキーもプログラム証書に記載されています。Arcserve RHA が付属される製品の場合 RHA のライセンスキーもプログラム証書に記載されています。ライセンスキーを登録しますと、ご購入 Arcserve 製品のライセンス（製品機能・数量）の範囲を超えて利用が可能になりますが、利用許諾違反になりますのでご注意ください。

### • アップグレードプロテクションについて

#### ○アップグレードプロテクションとは

本製品は購入時より年間のアップグレードプロテクションが含まれ、期間中に上位バージョンがリリースされた場合に上位バージョンのライセンス入手が可能になります。

#### ○アップグレードプロテクション期間延長

アップグレードプロテクション期間終了 3 ヶ月程度前に期間終了の案内（メール）が送付されます。期間を延長される場合は「Upgrade Protection Renewal」製品を御購入ください。尚、アップグレードプロテクション期間終了時点から 30 日以降は「Upgrade Protection Renewal」製品を購入し更新することはできません。

#### ○アップグレードプロテクション期間中のアップグレード方法

アップグレードプロテクション期間中に新規バージョン製品がリリースされた場合、お客様宛に新規バージョンのライセンス取得案内（メール）が送付されます。バージョンアップされる場合は送付されました案内の内容を確認し新規バージョンのライセンスキーを取得ください。

### • Arcserve UDP コンソール導入時の注意

Windows Server 2008 R2 でインターネットに接続できない環境に、Arcserve UDP コンソール（フル）をインストールする場合、あらかじめ .NET Framework 4. x および該当日本語ランゲージパックを導入してください。

Windows Server 2012/2012 R2 に、Arcserve UDP コンソール（フル）をインストールする場合、役割の[アプリケーション サーバー]、機能[.Net Framework 3.5 Features]を導入する必要はありません。機能に[.Net Framework 4.5 Features]が追加されている事を確認ください。

### • Arcserve UDP メモリ要件について

Arcserve UDP コンソール、RPS を導入（フルインストールなど）するサーバのメモリ要件について十分ご注意ください。

### • Arcserve UDP コンソール導入環境の運用注意

Arcserve UDP コンソールで設定されたバックアップは Arcserve UDP コンソールサーバ停止時にバックアップできません。

• UDP Windows Agent ベアメタルリカバリ (BMR) について

○BMR ブートメディアについて

BMRが必要な場合はマニュアルまたは「構築ガイド」などを確認し、事前に BMR 用ブートメディアを作成ください。

○BMR 時の追加デバイスドライバについて

BMR 用ブートメディアから起動した場合 Windows PE が起動しますが、BMR に必要な復旧元データ / 復旧先ディスクまでのデバイスが Windows PE 標準のデバイスドライバでは認識できない場合があります。この場合、追加デバイスドライバが必要になります。

※ 主に HBA (Host Bus Adapter) や NIC (Network Interface Card) の追加が必要です。

尚、追加デバイスドライバは OS バージョン毎にドライバファイルが異なる場合があります。BMR ブート時に起動する OS (Windows PE) バージョンは、ブートメディア作成時に利用される Windows ADK/AIK によって異なりますので、以下の表を参考にしてください。

Windows ADK/AIK	ベース OS	PE バージョン
Windows 8.1 Update 用 Windows ADK	Windows 8.1 Update/Windows Server 2012 R2 Update	5.1 (6.3.9600)
Windows 8 用 Windows ADK	Windows 8/Windows Server 2012	4.0 (6.2.9200)
Windows 7 用 Windows AIK	Windows 7/Windows Server 2008 R2	3.0 (6.1.7600)

※ 追加デバイスドライバ必要の有無につきましてはデバイス提供元に確認ください。

また、起動用 DVD-ROM ドライブが接続されている HBA が標準のデバイスドライバでは認識できない場合は別途 USB 接続等の記憶装置からデバイスドライバを追加ください。

※ BMR 用ブートメディア作成時にデバイスドライバを追加する事も可能です。

• UDP LINUX Agent ベアメタルリカバリ (BMR) について

○BMR ブートメディアについて

—BMR が必要な場合はマニュアルなどを確認し、事前に BMR 用ブートメディアを作成ください。

—UDP LINUX Agent バックアップサーバの BMR には CentOS LiveCD からブートメディアを作成する必要があります。CentOS LiveCD はお客様にて準備していただく必要があります。

なお、ブートメディアで起動した場合、UDP LINUX Agent バックアップサーバのインストール条件と同様のモジュールが必要になります。対象モジュールが組み込まれていない場合は復旧できない事がありますので、ご注意ください。